

【大学シーズ情報】 ※印の項目は必須項目ですので、ご記載ください。

◇本事業では、大学の「知財」「技術シーズ」全般を取り扱います。

特許の有無は問いません。

大 学 名 近畿大学

※研究タイトル	微生物を用いた植物病を抑制する土壌改良剤
※研究者の所属学部 学科、役職、氏名	生物理工学部 生物工学科 教授 阿野 貴司
技術のポイント	農薬や肥料を用いず、植物病原菌を抑制する微生物によって植物病を抑制する
現在の研究開発段階	A 基礎研究段階 ・ B 試作段階 ・ C 実用化段階
※技術の紹介	植物病原菌を抑制する微生物を環境中から単離した。これらの微生物は、食品性廃棄物等のバイオマスを用いて培養できるため、安価な土壌改良剤としての利用が考えられる。また、植物病を抑制する他、植物の生長促進作用を示すものも含まれていることから発病抑制土壌として機能する他、植物の生育促進作用も期待できる。従来の微生物農薬資材は、比較的高栄養状態で増殖するものに限られていたが、今回単離された微生物の中には、低栄養状態においても増殖可能なものが含まれているため、土壌中の安定性も期待される。従って、様々な微生物の特性を活かすことにより農薬や肥料の使用の低減化が可能な農業を行うことが期待される。
研究の背景	従来植物病原菌による病気は農薬などの化学的方法で対処されており、農薬・肥料の低減が農家・消費者から求められてきた。
従来技術より優れている点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安価なバイオマスの利用が可能（コストダウン） ・ 低栄養状態でも増殖可能（環境適応性） ・ 農薬と肥料の使用量の低減化
※技術の 用途イメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 畑作土壌での発病抑制土壌への土壌改良剤 ・ 野菜、果樹等の生長途中の病害保護剤としての散布剤 ・ 園芸用の病害防除剤としての利用
中小企業への期待	有機肥料の製作会社や有機農業用の資材を開発されている会社、あるいは今後の取り組みとして持続可能な社会における環境保全型農業に興味を持たれている会社等との共同研究。
知財情報 (注) 特許番号がありましたら記載ください	